



TITLE:

最近五年間邦文天文書一覽(一)

AUTHOR(S):

水野, 千里

CITATION:

水野, 千里. 最近五年間邦文天文書一覽(一). 天界 1925, 5(57): 374-376

ISSUE DATE:

1925-09-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160303>

RIGHT:

五〇倍位のものが必要であり、理想的なことを言へば、一五〇、三〇〇倍もほしい。現在ついて居るものでは七〇は星雲星團其他月の一般の外観、變光星の観測に使用し一一〇は球狀星團、遊星の外観、淡き變光星、距離五秒以上の二重星等に適當であり二三〇は遊星月の研究的観測〇・七秒程度の二重星も熟練すれば見分け得る事が出来殆んど總ての天體を觀測するに殆んど不自由ない。ペーカー製のものはアイピースの直徑が異なる爲に英國標準型アイピースのはまるアダプタ

ーにはまつて居る。従つて此のアダプターを外せば英國製のアイピース分光器等が使用出来る。

此の反射望遠鏡について事實あつた事を記したに過ぎないが幾多の新しい智識を我々に與へてくれる。反射鏡に興味を持たれる方が一箇の鏡につきての設計及び一箇の鏡に對しても如何に重大なる注意が拂はれて居るかについて幾分の參考になれば幸ひである。

最近五年間邦文天文書一覽 (二)

水 野 千 里

(上)

され度い。

○山本博士著

(一) 星座の觀し方

一冊

一・〇〇^円

警醒社書店

(二) 遊星とリット

一冊

二・〇〇

同

(三) 星空の觀察

一冊

二・五〇

同

(四) 天文と人生

一冊

二・二〇

同

(五) 宇宙建築と其居住者(天文學史)

一冊

一・六〇

同

(六) 火星が来るんだ

一冊

〇・八〇

同

去る七月二十九日と三十日の二日間、第三回岡山講習會が開かれたとき、講習員各位の參考にもと考へ天文同好會創立(大正九年九月)以後出版された邦文天文書中、余の手許にあるものを陳列して、一覽に供したところ、本誌編輯部から短評を加へて、「天界」に投稿せよと命ぜられたので、妄評を左に記す。大正十二年九月一日の震災前に出版せられたものは多く火災に罹つたので、復興版の有無を入用の方は問合

(七) 火星の研究

一冊 一・五〇

同

(八) 最近の天文學界

一冊 〇・六〇

大阪毎日新聞社

(九) アインシュタインの相對原理

一冊 〇・一〇

天文同好會

(一〇) 新星總覽

一冊 〇・五〇

同

(一一) 藤井天文臺天文通信(未完) (滋賀日報に掲載)

一冊 〇・五〇

同

右は天文同好會創立者の一人で京大教授山本博士が各地で講演されたものや、「天界」や「天文月報」で發表されたものを單行本にされたので主として通俗的に書いてあるから初學者にむいて好い物許りである。しかし(七)は可なり専門的である。

○古川龍城著

(一二) 天文學と人生

一冊 二・〇〇

想泉閣

(一三) 最新天文學の知識

一冊 二・三〇

白楊社

(一四) 科學世界宇宙の構造

一冊 三・三〇

中文館書店

(一五) 星のローマンス

一冊 二・〇〇

新光社

(一六) 星夜の巡禮

一冊 一・五〇

表現社

(一七) 月夜に憧れて

一冊 一・五〇

警醒社書店

(一八) 月の科學

一冊 二・〇〇

新光社

(一九) 火星の生物

一冊 一・〇〇

同

(二〇) 火星

一冊 二・三〇

白楊社

(二一) 手に取るやうな星の世界

一冊 一・〇〇

文洋社

(二二) 星座の圖

一冊 一・〇〇

新光社

右は天文同好會創立者の一人で、京大、東大の天文臺に勤務

されて居たが、現今は國民新聞記者になつて、科學普及の爲めに麗筆を振つて居られる。(一五)は星の傳説を集めたもの、

(二〇)はビケリングの著を譯述されたもの、(二二)は邦文星圖中繪入りで他に類がないが、赤經、赤緯のないのが物足り

ない。

○水野千星著

(二三) 國定教科書星の話解説一冊

〇・五〇

警醒社書店

(二四) 天文童話太陽の親類めぐり

一冊

一・二〇

同

(二五) 天文童話星座めぐり

一冊

一・五〇

同

右は天文同好會岡山支部幹事の著(二三)は尋常小學國語讀本卷九にある「星の話」の解説で小學校教員及び家庭の參考書として書かれたもの、(二四)は太陽系、ハーシェル一家、我が國の天文臺について述べ、(二五)は曆にある三十三星座の解説である。

○吉田源治郎著

(二六) 肉眼に見ゆる星の研究一冊

一冊

三・五〇

警醒社書店

右は天文同好會員で熱心な基督教牧師の著で、纏つてよく書いてあるから、初學者にお奨めする。

○理學士清水半吾著

(二七) 天文概説

一冊

三・〇〇

目黒書店

右は天文同好會員で奈良女高師教授の著、系統的に書いてある好い本である。

○理學士織田茂著

(二八) 彗星

一冊

三・八〇^円

古今書院

(二九) 宇宙研究新天文學概論 一冊

一・五〇

同

右は天文同好會員で、東大天文臺技師の著である。(二八)は専門家の參考となり(二九)は新天文學の大意が述べてある。(二七)と(二九)とを併せて了解したら一角の素人天文家になれる。

○古賀和吉著

(三〇) 古賀恒星圖

一枚

一・五〇^円

(目下)

天文同好會

(三一) 簡易星圖

一枚

〇・一〇

同

右は天文同好會九州大牟田支部幹事の著である。(三〇)は一六等星、星雲、星團、新星合計四千三百七十三個を記載してあつて、邦文中の詳細なもの、(三一)は一等星から四等星迄を掲載してあるもので、中等學校の教授に用ひ、家庭用としてよい。

○西岡芳涯著

(三二) 月球圖

一枚

〇・一五^円

大連市大阪屋號

(同好會取次ぎ)
右は天文同好會員の著で、邦文唯一の月球圖、裏面に月に關する説明がある。美術的に出來て居るから床の飾りにもなる

同氏の天文數歌第一、二、三輯とも再讀、三讀すべきものである。

○天文同好會編

(三三) 流星觀測用星圖

十三枚一組

〇・六五^円

天文同好會

(三四) 雜誌「天界」

一部

〇・三五

同

右は本邦唯一の流星觀測用星圖十三枚で、内地から見える天が全部揃ふて居る。本邦に於て天文専門の雜誌は我が會の「天界」に日本天文學會の「天文月報」に丈けで、内容の充實せるは實に我が「天界」である。英文「ブレテン」が天文同好會から出版されて、世界の有名な天文臺のブレテンと交換されてゐる。(續く)

お断り

天界の九月號に雜念雜話といふ記事が出てゐますが、恐らく大多數の讀者諸君には、この記事は混線の場合によその電話をきいてゐる様な感じを與へたこと、察します。實のところあれば天界の爲に書いたのではなくて、去年の秋、緯度觀測所二十五週年紀念の爲にいたしました通俗講演の一部分を、當地の雜誌『郷調』の爲に書き下したものでございます。即、當水澤に關係ある人々ばかりの興味を思つて書いたものなのです。その雜誌が偶然山本先生のお手に入りしましたさうで、はからずもあの拙文を天界に轉載して戴くことになつたのでした、記事の内容が同好會の方々の胸にヒットりさ來なかつた理由、書くの如くでございます。

陸中 水澤 川 崎 俊 一